

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】						
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間	達成状況
1	25	「思いや意向の把握」については従来計画作成担当者がケアプラン作成の段階で関与してきたが、スタッフ間で利用者の思いや意向が充分共有できていない面があった	スタッフ全員で利用者のアセスメントを行い、「ニーズ→プラン→自己実現→具体的支援メニュー」を作成する	アセスメントを分かりやすく「原因(～の原因のために)、状態(～の状態になって)、問題(～できず困っている)、意欲(～したい、～なりたい)」に分割し問題点を整理する。自己実現は「自分の思い、スタッフに望んでいること、家族への願い」として考える	6ヶ月	スタッフ間で利用者像を多面的に把握することが徐々にできつつある。
2	42	「食事を楽しむことのできる支援」についてはこれまでも利用者とスタッフが協働で食事の準備等をしてきたが、さらに食べる楽しみと作る喜びを引き出す	月1回の「食事会」と「料理の日(利用者も一緒に作る日)」と設ける	毎月最終日曜日は近くの寿司店にて「食事会」を実施する。また第1日曜日の午後はおやつ作りを行う	1ヶ月	食事会は毎月定例となり利用者の楽しみになっている。また「料理の日」はこれまで饅頭や餃子を作って楽しんだ
3	50	「役割、楽しみごとの支援」については全体として一定の成果を上げているが、利用者個々の認知のレベルにあった支援方法を研究する必要がある	家事やレク、創作以外に季節感のある催しや宗教行事を取り入れる	作業的内容、レク的内容をリストアップし、認知のレベルに応じて「出来ることと出来ないこと。全体ですること、複数人数ですること、単独ですること」に分けてケース毎に活動に取り組む。また季節感や宗教行事についても色々アイデアを出す	3ヶ月	お盆行事(迎え火、送り火)、花火遊び、夕涼み、デイのカラオケ参加等それまでやっていなかった活動に取り組むことができた
4	15	「職員を育てる取組み」についてはこれまでも認知症介護実践者研修等を受講してきたが、初任者対象の研修にも力を入れる必要がある	スタッフ全体の知識と技術の向上に努める	初任者は介護基礎講座に参加する。中堅スタッフはさらに上級の講座を受講する	12ヶ月	初任者は介護基礎講座を、中堅スタッフは認知症介護実践者研修を受講する。介護福祉士受験予定者は対策講座に参加する(何れも自己研鑽のため会社命令の業務として参加する)

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。